

「宗教にまるで縁がなかった私が、なぜ旧統一教会の取材にのめりこんだか」

みなさん、こんにちは。

今日はこのような会にお呼びいただいて主催者の皆様にも、皆様にも感謝を申し上げたいと思います。私のお話ですが、宜しく願います。

旧統一教会には「暗い」イメージを持っていた。世界日報編集員へのインタビューで好印象を持つ

私は今までも、いろいろ取材をしてきましたけれども、宗教関係の取材というのはほとんどありませんでした。自分自身の生まれた環境からしても、宗教とか信仰心というものとは無縁な状況で育ってきました。今思うところというところでお話をするというのは、「あれ、どうしてこんなになっちゃったのかな」という、まだ「にわか」という感じなんです。まず、そもそも家庭連合、旧統一教会が家庭連合と言う名前に変わったということすら知らなかった。去年の安倍元首相の暗殺事件以降、やはり大きな動機は、メディアによるバッシングがあまりにもすごいと、ただ、それだけではなくて実を言うと、これは偶然なんですけれども、去年の安倍元総理の暗殺前、私は2021年12月に、今、ご紹介にあったように『ポリコレの正体』と言う本を書いています。「ポリコレ」というのはポリティカル・コレクトネス、今、ちょっと問題になっているLGBTの問題も含めたポリティカル・コレクトネスについての本を2021年の春くらいに書いたときに、アメリカのポリティカル・コレクトネスの状況に詳しい方が誰かいないかなと思ったら、世界日報の編集委員の方が大変詳しいということで取材をさせていただくことになったんです。ただ、世界日報についてもそんなに知識がなかったし、ただ旧統一教会と関係があるというか、創設者、設立者が文鮮明氏だということは知っていました。私自身の旧統一教会に対しての知識もすごく乏しくて、やはり日本の一般の人たちと同じように、なんだか悪い、暗いイメージ、それはやはり1990年代に、今と同じかのような、すごいバッシングを、合同結婚式とか靈感商法によってすごく受けていて、その時の印象があるので、やはりちょっと大丈夫かなと思ったんですが、世界日報は保守系の一般紙です。その記事のクオリティが高いというのはわかっていました。そしてスクープもいくつも出している。世界日報では、定期的に講演会をやっている。著名人を呼ぶ講演会をやっていて、保守系の著名人の方たちがたくさん登場していらっしゃる、そういうことも知っていたし、いろいろな著名人が紙面にも登場していらっしゃる。だから、大丈夫だろうなと思って、取材を編集員の方に申し込んだんです。それで、取材をさせていただいたんですけれども、私は大変、好感を持ちました。こちらが取材をした、質問をした内容に対して、とても的確な答えが返ってきて、知識がすごく豊富。それと大変親切で、私はよく取材をしている最中に、ボイス・レコーダーが壊れちゃったりということがあるんですね。ドジをして…。そういう時って、デジタルとかすごく弱いので、困っちゃうんですが、彼はちゃんと直してくれたり、電池がなくなったんだっけかな、その時…、電池を補充してくれたりして、すごく親切で、とっても本当に好感をもったんです。その方とは、情報交換ということもあって、その後、何回かお会いしたりしていました。そうしたら、去年のあの事件が起きたんです。

中立的な意見でさえ袋叩きにあう風潮、被害者を加害者にすり替える全国弁連の詭弁に疑問を持つ

その後、メディアが家庭連合を、ここまでひどく言うかというくらいひどいバッシング。中立的な意見でさえ袋叩きにあう。メディアの方々、今来ていますが、これは言いたいんです。太田光さんが、拉致監禁の問題について番組の中でしゃべった。そんなに太田さんは強烈に反対していたわけじゃないと思う。ただ「拉致監禁」という言葉を出した時にもものすごいバッシングを浴びた。袋叩きにあった。彼は、あくまでも中立的な立場でしゃべったと思います。それでもああいう状況になった。やっぱりこれはあまりにも理不尽である。それと家庭連合のきちんとした反論もまったく受け付けない状況。ここまでひどい一方的な報道ってあるのかなというふうに思いました。

具体的に言うともまず、全国弁連の発言。これに大変疑問を持ちました。たとえばですね。昨年7月12日に行われた全国霊感商法対策弁護士連絡会の記者会見。旧統一教会に対して激しい非難の言葉が、弁護士たちから次々に飛び出したわけです。「旧統一教会の問題に限って言えば、山上徹也もその母親も100%被害者である。教団側は100%加害者である」、で「巨悪」とも表現しました。なぜ、被害者が加害者のようになっているのか。あの時、全国弁連の弁護士さんたちは言いました。「教団は100%加害者である」。それは確かに「旧統一教会の問題に限って言えば」と言いました。しかし、これはかなり詭弁ですね。被害者は加害者になぜすりかわるのか？まず、そこにすごい疑問を持ちました。それから、連日ワイドショーに出演している紀藤弁護士のコメント。「旧統一教会は信者に売春をさせてまで資金集めをさせている。人の金を奪い取る発想は旧統一教会の信者に蔓延している。親が子供を脱会させたいがために暴力団を頼む。しかし、暴力団は親からもらった金を教団に渡す…」などなどですね。まあ、はっきり言って、正直、耳を疑う発言ばかりでした。「ほんとなの？これは」と。さらに「日本の宗教団体で、カルトと評価しているのはオウム真理教と統一教会」という発言に至ってはですね、信者や一般人を、まず29人殺害していると思います、あと何千人も負傷させている、そのオウム真理教と、一人も傷つけていない旧統一教会を同列に論じるということに、あまりにも無理があると思いました。それで、先ほど申し上げました、世界日報の編集員の方がとても好印象だった。たぶん彼は信者だろうなと思いましたが、こういう方が所属する教団がそんなに悪い組織なのかなということ。それと、今、申し上げましたように、全国弁連の発言にとっても疑問を持ちます。それで取材をすることにしました。

ただ、結局、当時、中立的な立場でこの問題取材しようとしても、かなりバッシングを受けるだろうな、やはり怖いと思いました。知り合いの編集者に言ったら、それは福田さん、やっぱり書くべきだと、彼はやはり、世界日報のジャーナリストとも交流があって、彼はちゃんとした人だよ。確かにスクープもあるし、記事自体は充実しているんです。確かにかなり保守的です。しかし、誤報もほぼないです。事実をちゃんと書いている。それは私も同業者ですからわかりますと言いました。じゃあ、やっぱり取材をしてみようと、そういう風に思いました。

全国弁連の真の目的は霊感商法被害者の救済ではなく、スパイ防止法の制定阻止にあった

考えた末に、私はまず、全国霊感商法対策弁護士連絡会というのは果たして純粹に、消費者問題のみに取り組む組織なんだろうか、その発足理由をさかのぼって調べてみたいと思いました。さきほど申し上げましたように、7月12日の全国弁連の記者会見といい、紀藤弁護士の発言といい、彼らが教団に対して

尋常ではない憎悪を抱いていることが伺えたからです。単なる消費者問題を超えた何かを感じたわけですね。その後のことは月刊 HANADA、2023 年 1 月号に記したわけですが、実際に 1987 年当時、全国弁連が発足した当時の記事を調べに大宅壮一文庫という所があるんですが、雑誌を集めている図書館です。そこに行っていていろいろ調べました。そうしましたらですね、端的に言えばですよ。この全国弁連と言うのは靈感商法被害者の救済を真の目的にしてはいないです。まず、当時、今もいらっしゃいますけれども、中心メンバーの山口広弁護士は、1987 年に発足したその直後から「この団体を解散させなくてはいけない」と言っているんです。なぜ、被害の実態もわからないうちから、「解散させなくてはいけない」と言っているのか。そここのところでやはり疑問を持ちました。結局、どういうことかということ、旧統一教会の関連団体である勝共連合が当時、推し進めていたスパイ防止法の制定を、まず阻止しようとする目的で作られた組織であることは確かです。それは、当時の弁護士たち自身の言葉からわかるわけです。山口広弁護士は、当時、「靈感商法で得た金は、統一教会や勝共連合の国家秘密法制定の策動の資金に流れている」と言いました。ただ、こここのところで間違いは、統一教会が靈感商法をやっているわけじゃありません。あとですね、この全国弁連の発足、その準備段階、1986 年 8 月、横浜弁護士会の小野たけし弁護士は、はっきり言っています。「被害者は一人しかいなかった」と。それだけでも弁護団を発足させて、マスコミに取り上げてもらって、被害者を発掘させようということになったと言っているんです。通常は、消費者問題ですから、被害者がたくさん増えているために救済組織を立ち上げるはずですよ。ところがですよ。被害者は一人しかいなかったと言っているんです。ただ、その被害者ってどういう被害者か分からないですね。靈感商法って言葉自体も、当時なかったです。たぶん、共産党が作った。当時は消費者庁と言ったわけではないですが、「開運商法」というふうに言っていたと思うんですけれども、そこで、そういう被害者がすごく増えているとか、そういうことは一切ありませんでした。彼らが全国弁連を立ち上げたときに、マスコミも全部巻き込んで、ものすごくキャンペーンを張った。そのために、壺とか、そういうものを買った人が、納得尽くで買っていたんですが、あまりにも大騒ぎをするので、「え、どういうことなんだろう」と、びっくりして相談会に言ったり、あとは反対に、「こうして大騒ぎをしているけど、大騒ぎをすることじゃない、私たちは納得して買ったんだ」と、相談会に抗議をしにいった人たちが多かったんです。それで、その全国弁連の弁護士さんたちは、ほぼ全員が旧社会党系、共産党系で占められていて、スパイ防止法の制定に強く反対していました。過激派や北朝鮮とのかかわりを持っていました。思想的には神を信じない左派、それに対して、旧統一教会は神を信じる、反共、保守派であって、両者のイデオロギー上の戦いであったことも明らかなんです。山口広弁護士も当時、はっきり「右翼的活動の抑止、特に国家秘密法阻止のためにも良いのでぶち上げたい」と言っているんです。だから三十数年前に始まった靈感商法キャンペーンというのは、かなり成功したわけです。それで、今も、旧統一教会に対して社会的スティグマ、かなり悪い烙印が押されてしまっている。私が言いたいのは、それはかなり、全国弁連とそのまわりの反統一教会の人たちのプロパガンダが効を奏しているというふうに思います。

すみません、ちょっと時間がなくなっちゃいましたが、その後、信者 4300 人以上に対する拉致監禁の実態というのも私は取材しましたよ。びっくりしました。これについては、また後でお話する機会があればしたいと思います。信者さんたちは、ほとんど知っていると思いますが、これは一般の方に向けて。今の靈感商法についてもそうです。ほとんどの日本人が、向こう側のキャンペーンに完全に毒されている。そういう人たちに対して、こちらの方が事実だということを言いたいということがあります。すみませ

ん。ちょっと時間が迫ってしまいました。私の言いたいことはこれだけです。どうもありがとうございました。